(1) 生活産業を学ぶに当たって
ア　働くことの社会的な意義や役割
イ　職業人に求められる倫理観
ウ　産業構造の変化と課題
エ　生活産業の意義と役割
(2) ライフスタイルの変化と生活産業
ア　社会の変化とライフスタイルの多様化
イ　生活産業の発展と伝統産業
(3) ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供
ア　消費者ニーズの把握
イ　商品・サービスの開発及び販売・提供
ウ　関係法規
(4) 生活産業と職業
ア　食生活関連分野
イ　衣生活関連分野
ウ　住生活関連分野
エ　ヒューマンサービス関連分野
(5) 職業生活と自己実現
ア　職業選択と自己実現
イ　社会の変化と職業生活
ウ　将来設計と進路計画

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。
ア　〔指導項目〕の(1)については，この科目の導入として扱い，社会や産業全体の課題及びその解決のために生活産業が果たしている役割について，具体的な事例を通して指導すること。
イ　〔指導項目〕の(3)については，職業人に求められるマネジメントの重要性に着目し，消費者の多様なニーズを的確に把握するとともに，商品・サービスの開発から販売・提供に結び付けていく一連の流れを踏まえ，それらに関する実習を取り入れるなど指導を工夫すること。
ウ　〔指導項目〕の(4)のアからエまでについては，生徒の実態や学科の特色に応じて，いずれか一つ以上を選択して扱うことができること。
(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。
ア　〔指導項目〕の(1)のウについては，サービス産業の発展などを扱うこと。

イ　〔指導項目〕の(2)のアについては，経済の発展に伴い，就労形態や価値観，ライフスタイルが多様化している状況を扱うこと。また，社会の変化の一つとして人口減少社会についても取り上げること。イについては，社会の変化に伴う生活に関する価値観の多様化や消費者の多様なニーズに応えるために生活産業が発展している状況及び伝統産業の現状と課題や今後の展望を扱うこと。
ウ　〔指導項目〕の(3)のアについては，消費者の多様なニーズを捉える調査方法や結果を商品開発等に活用する方法などを扱うこと。イについては，身近で具体的な事例を取り上げ，商品・サービスの企画，開発から生産，販売・提供に結び付けていく仕組みを扱うこと。ウについては，商品やサービスの販売・提供に関する法規を扱うこと。
エ　〔指導項目〕の(4)については，具体的な事例を通して生活産業の種類や特徴及び関連する職業や必要な資格を扱うこと。
オ　〔指導項目〕の(5)については，生活産業に関わる職業人に求められる資質・能力と役割や責任，職業資格，進路設計などを専門科目の学習と関連付けて扱うこと。

第２　課題研究

１　目　標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，生活の質の向上や，社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。
(2) 生活産業に関する課題を発見し，生活産業を担う職業人として解決策を探究し，科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
(3) 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び，生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

２　内　容

１に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。
〔指導項目〕
(1) 調査，研究，実験
(2) 作品製作